

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

* 答えはすべて解答用紙に記入すること。

熊は私たちに親しいのである。いろんな話が伝わって知られている。もちろん恐ろしい話もたくさんある。それなのになんとなく熊という、「かわいい動物」というように思っていないだろうか。動物園では、その観念は捨ててもらわなくては困るといつている。

金太郎の話はたぶん全国的にひろがっている話だとおもうけれど、かわいいという観念はそんなところからも来てはいはしないかともう。眼のくりくりした裸ん坊の山育ちの童児金太郎君が、熊をお友達にして、相撲をとって大きくなったという話は A

である。絵にもあるし、おもちゃ人形にもあるし、私たちが何代も語り伝えてきた親しいものである。しかし、金太郎の話よりも熊そのものの姿が「かわいい」顔なのだとおもう。むくむくと、非常にやわらかい曲線をもつ姿で、愛敬のある歩きかたを見せる。いったいに動物はみな柔軟な線をもっているのが多いが、犬・狼・狐などは尖った形といえる。猪はまるまるとしているにもかかわらず、角張った感じをうけ、猫はやわらかさの代表のようにいわれるが、あれはむくむくというのではない。毛をとる羊こそはむくむくだけれど愛敬に乏しい。熊はやはりかわいい顔といっている。魅力的な恰好なのだ。すこし田舎くさいところが、なんともいえず、気易くてかわいい。

某ウイスキー会社のテレビのコマーシャルには熊が使われていて、線描きの絵で登場する。先生熊だかお父さん熊だか大きいのが一頭さきに歩いて来て、立ちどまり、ふり返り、手を振る。すると子熊が何匹も整列して出て来る。大きいのが合図する。みんな一斉におじぎをする——というそれだけの絵なのだが、それがいかにも親しい。熊のむくむくだぶだぶした姿態が気楽な感じを与えるのだ。だが、この感じが実に困りものなのだ。絵に見る熊、話に聞く熊には距離があるのだ。かわいいという観念は、① そういう距離の上

に成り立った、いわば甘い観念だから困りものなのだ。その証拠には山にいる自由な彼らに出くわした人で、かわいいなんていつている人は一人もいない。熊とじかに向かいあった人ははつきり彼らが猛獣だということを認識していつているのである。かわいいなんていうものではないのだ。それだから甘い観念などは困るという。けものを必要以上恐れるし、つけも B が、「熊とお相撲とりました、熊はころりと負けました」とだけ聞かせて、熊が猛獣であることを教え忘れては、これも C とはいえなからう。

動物園では「② 熊は無表情である」といつており、「熊の目にみんながだまされるのではないか」ともいつている。無表情ということとは、一見おだやかと見紛うことであり、心ななを考えているのか、表面からは見とおせない静かな目なのである。それでうっかり近づいて、とんでもないことになるのだ。長年馴れなじんだ飼育係でさえ、彼らはなにかの弾みには、引っ掻いてしまう。

だから、馴れていても飼育の人は緊張を欠かさない。それでも時に事故が起きる。檻の外で掃除しているのを、ふっと鉄柵のなかから爪にかけて引きよせ、まるで抱えるようにしてその人を傷つけてしまったという。内側へ引きこむ力はとても強くて敵わないそうだ。脚は爪と歯でいたい放題にやられてしまったのだが、③ 飼育係には飼育係の気質がある。非常のときはえらくはつきりした行動がとれる底力みたいなものを持っている。その人も、そんなにやられながら、気力も失わず、又、めちやくちやなやりかたもせず、傍らにあつた棒をとって、熊を突きやり突きやりして、とうとう脚から熊をどけ、ふらりふらりとよるけつつ飼育事務室まで辿りついて、そこで倒れてしまったという。股のあたりから膝へかけて、ぶつぶつと爪あとと歯あとが並んでいたというから D。夏は誰でも汗をかく。飼育の人はことに労働が激しいから汗になるが、熊はその汗になった手を舐めに来る。そんなときどんな気がするだろうか、そとごとには思えない。かわいいような、恐ろしいような、へんな困惑かとおもう。甘いものが好きで、蜂蜜を好むのはユーモラスだが、汗のような塩気もほしいと見える。

ロシアのポリショイ・サーカスは、熊を主役にした編成だったが、熊使いの人はポケットに角砂糖を持っていて、演技の済んだ熊に与えていた。熊をサーカスにあんなにどつきりと使っているところは、世界中でもほかに少ないそうで、それほど熊はやりにくいという。ポリショイでも、だから万一を気づかなくて口輪をはめて舞台に出していた。逆立ち、棒まわし、ブランコ、そりひき、消防夫で火事を消したり、怪我人に薬箱や繃帯をもって行ったり、オートバイ運転をしてライトを点滅したり、はては、拳闘(IIボクシング)をしたりまでする。

その拳闘のとき、負けたほうの熊のパンツの吊紐がはずれ、熊はおしっこをもらして濡れてしまったので、私は哀れで哀れでたまらなかつたが、ある人が大笑いして、
「あなた、人がよくて甘いからだめだ。あれも演技ですよ」
と教えられた。小便まで教育してあるとは驚き入ったことである。

どんなことをやって、おしっこを出すしつけをしたか、いまでも私は「？」をもっている。もつともあの拳闘では、いつでもきまっておしっこをするというから、私の甘いのは決定的だろう。④ してやられたという趣味である。

北海道には到るところに熊の話がころがっているが、これは人から聞いたほんとの話。
「熊は英雄をこしらえる」

というのである。その人は製材をする会社の社長さんなので、深山のなかの現場へ行くことも度々であるが、そこは、かなり整備した林道がひらいてあって、道は九十九折(II幾重にも折れ曲がって続いている山道や坂道)なので、ところによっては、こちらから

よく見えるところもある。ある夕がた、急に村へ降りることになって、人夫さんたち（＝土木工事などの力仕事に従事する人々）が止めるのをしりぞけて、九十九折りを下山しはじめた。

人夫頭さんは、なんだか⑤虫が知らせて、曲がりにはたに立って見送っていた。社長は一曲がり二曲がり降りて行った。と、道へ

1 子連れ熊が現れた。上から見ていた人夫頭は、あつと血の気がひいた。子を連れた熊にあつては勝味はない、逃げられないとほとんどきままっているのだ。社長はしかしひどく鷹揚に（Ⅱのんびりと）、持っていたステッキを

2 剣術の型を見せているように、剣舞のように振って見せ、熊はストップをかけられ⑥閉口した様子で、子を庇い退散して行ったのだそうなの。

3 もう遠く離れた小路で、声も届かない距離なのである。社長はやおら（Ⅱゆっくりと）立ち上がって、後ろ向きに下山するその背に夕陽がかつとして、上で見ていた人夫頭は唸った。⑦さすがに社長だ

社長が下山しているうちに、その話がひろまって、山の上では英雄に仕立てられてしまっていた。実は社長は腰のあたりがくたくたとして、熊の前ですわってしまったのである。ステッキのことなど知らないのだそうだ。

「まして熊に剣舞など見せたつもりなど毛頭ありませんでした」とはにかむのである。

「さすが社長だなんて、まったくきまりが悪い。熊の奴、あとまで困らせやがった」と憤慨するのである。

「こつちが死に物狂いをやっているのに、さすがだなんて、まったくどうも」と苦笑していた。⑧熊、人を英雄にす——である。

（幸田文『動物のぞき』）

問一 A、B、C、D について、それぞれに当てはまる言葉は何ですか。次のア～オの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア つまらない イ ほほえましい ウ あどけない エ 賢い オ 恐ろしい

問二 線部①「そういう距離」とありますが、ここではどのような意味を表していますか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 人々が抱く熊のイメージと、猛獣としての熊との落差
イ 動物園に熊を見に来る人と、熊を飼育する人との落差
ウ 動物園で飼育されている熊と、野生で暮らす熊との落差
エ 昔話に登場する熊と、現代に生息している熊との落差

問三 線部②「熊は無表情である」とありますが、このことは人々をどのような気持ちにさせますか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 熊の気持ちを讀み取ることができず、人々に不信感を抱かせる
イ 熊が人間に近い動物だと思われて、人々に親近感を抱かせる
ウ 熊の表情がいつ変化するか分からず、人々を警戒させる
エ 熊が落ち着いているように見えて、人々を油断させる

問四 線部③「飼育係にはく氣質がある」とありますが、ここではどのようなことを表していますか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 熊の世話をしようとして熊に危害を加えられても、熊がおとなしくなるまでじっと待とうとする
イ 熊の世話をしている最中に熊が危害を加えようとすると、熊を相手に本気で闘おうとする
ウ 熊の世話をしている時に熊に襲われても、冷静さを失わずに適切に対応しようとする
エ 熊の世話をしようとして熊に襲われると、自分の無事よりも来園者の安全を優先しようとする

問五 線部④「してやられたという跡味」とありますが、ここには筆者のどのような気持ちが表示されていますか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア サーカスの本番中にへまをしでかした熊を見て、がっかりしている
イ サーカスに登場した熊に夢中になったのを人に指摘されて、照れくさい
ウ サーカスの演技中に失敗した熊に同情してしまって、恥ずかしい
エ サーカスで見た熊の失態を仕込まれた芸だと見破れず、きまりが悪い

問六 線部⑤「虫が知らせて」、⑥「閉口した」とありますが、どのような意味ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ⑤「虫が知らせて」
ア 気がねして
イ いやな予感がして
ウ 気を取られて
エ 落ち着きを失って
- ⑥「閉口した」
ア 意外な出来事にあせった
イ 身の危険を感じた
ウ 思わず不意を打たれた
エ どうしようもなく困った

問七 1、2、3 について、それぞれに当てはまる言葉は何ですか。次のア～オの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア おっとり イ あたかも ウ さらに エ のっそり オ なにしろ

問八——線部⑦「さすがに社長だ」とありますが、ここには「人夫頭」のどのような気持ちが表示されていますか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 子連れの熊にばったり出くわしても、あわてずに対応した社長の態度に感心している
- イ 子連れの熊が襲ってきても、剣舞で応戦しようとした社長の機転に驚いている
- ウ 子連れの熊に出会っても、逃げようとしのないのんびりした社長にあきれている
- エ 子連れの熊が攻撃せず退散するほど、威厳と気迫のある社長を恐れている

問九——線部⑧「熊、人を英雄にす」とありますが、「熊」が「人を英雄にす」とはどのようなことですか。六十字以内で分かりやすく説明しなさい。

□ 「奇跡のリンゴ」とは、リンゴ農家の木村秋則さんが無農薬・無肥料で栽培に成功したリンゴのことです。次の文章は、木村さんが行っている自然栽培について研究している杉山修一さんによって書かれたものです。よく読んで、後の問いに答えなさい。

自然栽培の主人公はリンゴの木

「リンゴを実らせるのはリンゴの木です。主人公は人間ではなくリンゴの木です。人間はそのお手伝いをしていただけです」

これは、木村さんが自然栽培を語る時によく使う言葉です。じつは、ここに自然栽培の本質があります。リンゴ栽培をゲームにたとえると分かりやすいでしょう。このゲームでは、雑草、昆虫、微生物のすむリンゴ園にリンゴを实らせたら勝ちです。慣行栽培（Ⅱ化学肥料と合成農薬の大量使用による近代農業）は、生産者が中心的プレイヤーとしてゲームを支配します。プレイヤーは化学肥料をリンゴに与えながら、化学合成された殺虫剤・殺菌剤をまいてリンゴ園の中の生き物を殺すことで、ゲームを成功に導きます。ここで、大事なものは、化学肥料と合成農薬です。この装備を備えていれば、誰でもゲームで成功することができます。

しかし、この栽培法では装備があまりにも強力なため環境に悪い影響を与えるので、^① 装備をより自然な素材にしたのが有機栽培です。有機栽培では、装備がずっと軽装になります。化学肥料の代わりに堆肥をリンゴ園にまいて地力（Ⅱ土地が作物を育てる力）を上げ、合成農薬の代わりに天敵昆虫などの自然素材で害虫を殺そうとします。しかし、装備の機能低下は避けられず、リンゴの木を襲ってくる虫や病原菌を完全に撃退することはできず、^② ゲームで勝利する効率は慣行栽培にはかきません。ここで、強調したいのは、慣行栽培、有機栽培ともに、生産者がゲームの主要なプレイヤーであることです。一方、放置栽培では、生産者はプレイすることをやめ、^③ ゲームを傍観します。害虫や病原菌がリンゴを襲っても見ているだけです。当然、何もしないのでゲームで成功することは難しく、リンゴの木は害虫や病原菌による大きな被害を受け、ゲームに勝つことはできません。それに対して、自然栽培では、生産者がプレイヤーをやめるのは放置栽培と同じですが、傍観するのではなく監督としてゲームに参加します。自然栽培のスタイルは、ゲームのプレイをリンゴ園にすむすべての生き物に任せることです。リンゴ園には、リンゴに害を与える敵対するプレイヤーもいれば、敵を抑える味方のプレイヤーもいます。それらは、地力をつくるプレイヤー、病原菌と戦うプレイヤー、害虫を防ぐプレイヤーなどいろいろです。

生物の多様性を促す

監督の役割は、敵の動きを抑える味方のプレイヤーを元気にすることです。そのためには、まず、有力なプレイヤーを集め、彼らを集密に結びつけて強力なチームにすることが大事で、それが自然栽培というゲームでの監督の役割です。有機栽培と自然栽培の根本的違いは、プレイヤーとして振る舞うか、監督として振る舞うかの役割の違いにあるのです。

天敵を例にとれば、両者の違いは分かりやすくなります。有機栽培では人工的に飼育した天敵を合成農薬の代わりにリンゴ園に放します。しかし、自然栽培では、A。天敵を害虫防除に使うにしても、散布するのとすみ着かせるのでは、考え方が大きく違います。簡潔に言えば、自然栽培の基本的考えは、肥料・農薬をまく代わりにリンゴ園の中にある「生物の力」を利用するということになります。このスタイルは、これまでの農業には見られない全く新しい考え方です。

サッカーでは、プレイヤーは同じでも監督が交代することでチームが急に弱くなったり、強くなったりすることがよくあります。監督の役割は、プレイヤーの間に緊密な連係をつくり、ボールをコントロールして相手ゴールを奪いやすくすることです。このためには、「プレイヤーの力」をうまく引き出すことが必要です。監督の役割はプレイヤー以上に重要であり、監督には経験とゲームに対する深い知識が要求されます。

木村さんは、リンゴ栽培でプレイヤーから監督に立場を変えることで、今まで見えなかったことが見えてきました。

（ア） そうすると、リンゴ園の中では、今まで優勢だった葉を食べる虫や病気を引き起こす菌の勢いが次第に抑えられてきました。

※ （イ） 続いて、今まできれいに刈っていた下草を刈らずに伸ばしました。

（ウ） まず、土壌が悪くリンゴの木が栄養不足であることに気づきました。

（エ） すると、そこに様々な昆虫がすみ着くようになり、生物の多様性が高まりました。

（オ） そこで、大豆やムギという新しいメンバーをリンゴ園に加えて、土壌をよくしました。

木村さんは、プレイヤーから監督へ役割を変えることの重要性に気づいてから、わずか3年間という短い期間で見事にリンゴ園を蘇らせることに成功しました。この短期間の成功は、初めの8年間の絶望的な日々の中でも、リンゴ園の中の虫や病気を^④ 丹念に観察して得た知識と経験があったから可能になったのです。絶望の8年間は決して無駄ではありませんでした。

木村リンゴ園の特徴は生物の B が高いこと

リンゴ園には、植物、昆虫、微生物など様々な生物がすんでいます。無農薬・無肥料栽培を行っている木村リンゴ園の特徴は、生物の C が高いことです。私たちの研究室で行った調査では、慣行栽培ではリンゴ園の下草は8種程度しか観察されませんが、木村リンゴ園では16種と2倍以上 ⑤ も多様な下草が観察されます。慣行栽培のリンゴ園の下草は白クローバやタンポポ、オオバコなど空き地によく見られる雑草が主体で、土がむき出しの裸地も目立ちますが、木村リンゴ園には、オーチャードグラスなどのイネ科の草に混じって、ヒルガオ、ヤブガラシのようなつる植物やヒメスイバ、ツユクサ、トウバナなどの草が所々に生え、草原のような外観を示しています。

この多様さ以外に、木村リンゴ園の下草を特徴づけるのは、生物群集としてのまとまりです。表現するのが難しいのですが、木村リンゴ園ではいろいろな種類の草が混じり合って D 。私はこれまで、自然栽培を始めて数年のリンゴ園を見る機会がありましたが、いずれも下草の生え方が木村リンゴ園とは違いました。生物群集としてのまとまりは見られず、特定の草があちこちで旺盛な生育をするなど、構成種が勝手に集まっている印象を受けました。つまり、生物と生物の間に生じる関係の発達具合が、木村リンゴ園と自然栽培を始めて間もないリンゴ園では違うのです。この生物と生物の間に生じる関係が、自然栽培で利用する「生物の力」を生み出す源です。
(杉山修一「すごい畑のすごい土―無農薬・無肥料・自然栽培の生態学―」)

問一 ―― 線部①「装備をより自然な素材にした」とありますが、どのようなことですか。これを具体的に説明した一文を問題文の中から探し、最初の五字をそのまま抜き出さない。ただし、句読点や記号も一字に数えます。

問二 ―― 線部②「ゲームで勝利する効率は慣行栽培にはかきません」とありますが、どのようなことですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 慣行栽培の方が有機栽培に比べ、より安全な方法でリンゴを効率的に実らせることができる
- イ 有機栽培より慣行栽培の方が、より多くのリンゴを効率的に収穫することができる
- ウ 有機栽培の方が慣行栽培に比べ、より手間をかけずにリンゴを効率的に作るができる
- エ 慣行栽培より有機栽培の方が、よりおいしいリンゴを効率的に栽培することができる

問三 ―― 線部③「ゲームを傍観します」とありますが、どうすることですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア いっさい何も手を出さずにリンゴをそのままにしておく
- イ 被害を受けたリンゴの生産をあきらめて放置する
- ウ 肥料や農薬を最小限におさえてリンゴの様子を見る
- エ 害虫や病原菌の対策を最小限にしてリンゴを育てる

問四 A に当てはまる言葉は何ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 自然の中に存在する天敵を探し出して、リンゴ園の中にすみ着かせます
- イ 自然の中にある天敵をリンゴ園の環境に合うように飼育し、すみ着かせます
- ウ リンゴ園の環境を天敵に合うように変えて、天敵をそこにすみ着かせます
- エ リンゴの栽培に必要な天敵を数多く育て、リンゴ園の中にすみ着かせます

問五 問題文の※(ア)～(オ)を正しい順序に直し、記号で答えなさい。

- 問六 ―― 線部④「丹念に」とありますが、どのような意味ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。
 - ア いつも新鮮な気持ちで
 - イ 少しも忘れずに
 - ウ あきらめることなく続けて
 - エ 注意をはらって丁寧に

問七 B と C には同じ言葉が入りますが、それは何ですか。次のア～オの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 持続性
 - イ 生産性
 - ウ 多様性
 - エ 重要性
 - オ 安全性
- 問八 ―― 線部⑤「も」と同じ使い方をしているものはどれですか。次のア～オの中から一つを選び、記号で答えなさい。
 - ア この店は安いし味もよい
 - イ 花子さんは国語も得意だ
 - ウ 五分もすれば帰ってくる
 - オ 一時間も待った

問九 D に当てはまる言葉は何ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 生存競争を繰り返しながら生育しています
- イ 互いにバランスをとりながら生育しています
- ウ チームごとに協力しながら生育しています
- エ 美しい景観を保ちながら生育しています

問十 杉山修一さんは、木村さんの自然栽培について、どのように栽培することだと述べていますか。「〜栽培すること」という形で具体的に説明しなさい。ただし、「〜」の部分は七十字以内とします。また、句読点や記号も一字に数えます。

③ 次の①～⑧の ―― 線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① シンペン を整理する
- ② 返事をホリユウする
- ③ 静かなバンネンを過ごす
- ④ 事件のシンソウを突き止める
- ⑤ 大統領を国のゲンシユとする
- ⑥ 友人からのチュウコク
- ⑦ そのことはショウチしています
- ⑧ 授業料をオサめる

受験番号
氏名

*の欄には何も書かないこと

*

問一				A
問二				B
問三				C
問四				D
問五				
問六				
問七				
問八				
問九				
問一〇				

*	*
---	---

問一				
問二				
問三				
問四				
問五				()
問六				() ↓ ()
問七				() ↓ ()
問八				() ↓ ()
問九				() ↓ ()
問一〇				()

*	*	*
---	---	---

⑤		①	
	ゲンシユ		シンペン
⑥		②	
	チュウコク		ホリユウ
⑦		③	
	ショウチ		バンネン
⑧		④	
	オサ		シンソウ
(める)			

*
